

Guide to the Isle of Treasures: SADO

歴史と伝統の旅に出る

船旅で人やモノが往来した

文化の島、佐渡

Prologue

プロローグ

佐渡海府海岸（国指定記念物）

佐渡は文化のふきだまり

各地から人もモノも文化も行き交う島

佐渡島は、日本海上に浮かぶ島としては沖縄本島に次いで二番目に大きな島である。面積は約855km²、約280kmの海岸線を有しており、佐渡に一番近い本土の対岸角田岬（新潟市）とは佐渡海峡を挟んで約32kmの位置にある。佐渡は北に大佐渡山地、南に小佐渡山地が並走し、中央の国仲平野は穀倉地帯となっている。島には海、山、平野、川、湖があり地形的にもまさに日本の縮図といえよう。こうした地理的条件に恵まれた佐渡の歴史は古い。岩屋山石窟（県指定史跡）遺跡は、佐渡の南、小木半島先端部の標高90mの高位段丘に位置する縄文時代の洞穴遺跡である。この遺跡からの出土遺物は、約8000年前にすでにこの地に人々が住んでいたことを示している。

また、佐渡は、古代から様々な人びとが船により出入りした島である。8世紀後半には佐渡国分寺が建立され、国分寺の出土

瓦から能登守三国真人広見の可能性のある人物絵瓦が発見されるなど、モノから人の行き交った跡が見とれる。また、奈良時代以降、穂積朝臣老、順徳上皇、日蓮上人、日野資朝、世阿弥などが流罪により、島へ渡ってきた。江戸時代には、相川の金銀山が開発され、役人、職人、商人らが全国からやってきて町を形成した。また、北前船の寄港地である小木などの港には、日本各地から様々な文化が運び込まれた。

佐渡は「文化のふきだまり」ともいわれるが、外から持ち込まれた文化と、佐渡の古くからの文化が融合して、佐渡独自の文化も多く形成された。この冊子で紹介できるのはそのごく一部でしかないが、これを手がかりに歴史と文化の宝庫・佐渡を歩いてみてほしい。歩くたびに島は様々な表情を見せてくれるはずだ。



Contents

- 03 祈りの扉を開けるⅠ
歴史を刻む神社仏閣を訪ねる
- 07 祈りの扉を開けるⅡ
唄い、舞い、演じる、祭礼の日
- 09 てくてくマップⅠ 相川編
江戸から近代へ鉾山町の名残りを散策する
- 11 てくてくマップⅡ 宿根木編
千石船の里で海の暮らしと文化を体験する
- 13 文化財探訪マップ



釈迦涅槃図
法泉寺蔵



釈迦涅槃図
のトキ

涅槃図に描かれた朱鷺

涅槃図は、お釈迦様の死を描いた図のことで、娑羅双樹のあいだに床を敷き、頭を北にして、静かに死後の悟りの世界に入っていく。その周囲には弟子たちが集まり、嘆き悲しみ、弟子たちに混ざって白象、孔雀、獅子、鶴や鶏などの霊獣が描かれる。この中に、朱鷺を描いた涅槃図が佐渡にあるという。所蔵しているのは、日蓮宗の法泉寺と実相寺だ。

田んぼのタニシなど小動物を餌にする朱鷺は、農業の合理化によって農薬や除草剤が撒かれるようになると、田んぼの中の小動物と共に減少の一路をたどった。日本産の朱鷺の絶滅が危惧され、昭和60（1985）年からは繁殖を目指し、佐渡トキ保護センターで人工的に飼育がなされるとともに、野生の朱鷺が生息する中国から朱鷺のペアを借り受けるなど、人工繁殖の取り組みが行われた。

平成15（2003）年、日本に生息していた最後の1羽が死亡したことで、日本産の朱鷺は絶滅したが、人工繁殖の取り組みが実を結び、現在では順調にその数を増やしている。平成20（2008）年には試験放鳥が行われ、平成24（2012）年には36年ぶりに野生化でのヒナが誕生するなど、現在も懸命な保護活動が展開されている。

いま、佐渡の田んぼを歩いてみると、運が良ければ朱鷺が餌をついばむ姿や羽根を広げて空を飛ぶ姿に出会えるかもしれない。佐渡市では平成20（2008）年の放鳥を契機に農家などと連携し、農薬・化学肥料の削減や魚道の設置など、生き物を育む農法に取り組んでいる。

朱鷺を育て自然界へと羽ばたかせたこの島に、奇しくも朱鷺が描かれた涅槃図が伝わっている。

【法泉寺の涅槃会】

法泉寺では年1回、3月16日に行われる宗祖降誕会の際に、朱鷺が描かれた涅槃図が公開される。



佐渡市内の指定文化財をご覧になる場合
http://www.city.sado.niigata.jp/z_ot/cultural_property/

祈りの扉を開ける I

歴史を刻む神社仏閣を訪ねる



佐渡最古の寺院

こくぶんじ
国分寺 創建：8世紀後半

国分寺は天平13(741)年以降、聖武天皇^{しよ}の詔^{ちよく}勅によって日本各地に建立され、全国に69カ所の国分寺があったとされる。佐渡の国分寺もそのうちのひとつである。七重塔が建立され、法華経なども納められたとされるが、正安3(1301)年に塔を焼失。享禄2(1529)年には本堂を焼失した。現在の建物は江戸時代のもので、寛文6(1666)年に建立された瑠璃堂には、平安時代の作とされる木造薬師如来坐像(国指定重要文化財)が安置されていた。(現在は瑠璃堂西側の収蔵庫に安置)創建当時の国分寺礎石が発見されたのは大正15(1926)年のことであった。その後発掘調査により、金堂・廻廊・講堂(新堂)・南大門・塔などの礎石が発見された。国分寺跡は、昭和4(1929)年に新潟県最初の国指定史跡となり、現在は史跡公園として保存整備されている。

【MAP】 C-6

【住所】 佐渡市国分寺113

木造薬師如来坐像
(国指定重要文化財)
平安時代
像高1.36m



茅葺屋根の庫裡と客殿。



中門をくぐった先に庫裡がある。



南大門、中門、金堂が一列に並び、中門と金堂を廻廊で結んだ寺院跡。(国指定史跡)



瑠璃堂(市指定有形文化財)

古から続く厳かな場所

佐渡には500以上の神社仏閣があり、指定文化財の約半数が所在する。島の人たちは、祈りの場を大切に守り、生活の拠りどころとしてきた。島の中には、この冊子で紹介しきれないほど数多くの神社仏閣が存在する。佐渡の各地で今も静かに息づく祈りの場所を訪れてみては、いかがだろうか。

県内唯一の五重塔がある

みょうせんじ
妙宣寺 創建：弘安2(1279)年

阿仏房日得上人により開山された寺で、阿仏房日得ははじめ遠藤左衛門為盛という上皇の身辺護衛にあたる北面の武士であった。順徳上皇に供奉して佐渡に渡り、上皇が崩御したのち、流されてきた日蓮に仕えて妻の千日尼と帰依した。そのため、日蓮の直筆の書簡が寺の宝物として残されている。寺では書簡の写しを見ることができる。境内には日光東照宮のものを模したといわれる五重塔(国指定重要文化財)がある。これは文政8(1825)年、相川の長坂茂三右衛門と金蔵の親子二代を棟梁として建立されたものである。建築様式は和様の三間五重塔婆で、屋根は宝形造椼瓦葺(旧こけら葺)、天辺に江戸風の相輪を備え、柱に杉材、上物に松材、組物に樺材が使用されている。

【MAP】C-6

【住所】佐渡市阿佛坊29



五重塔(国指定重要文化財) 江戸時代
全高約24m・初層の各辺3.6m



日蓮上人筆書状(国指定重要文化財)
鎌倉時代
縦30cm×横40cmの紙を継ぎ足した長物に、親切にしてくれた佐渡の人々への感謝の言葉と法華經の教えが書かれている。

仏像や書跡を展示室に展示

ちようこくじ
長谷寺 創建：大同2(807)年

長谷寺は地形が奈良の長谷寺に似ているので付けられた名前だという説もあるが、定かではない。佐渡に配流となった能の大成者・世阿弥も、長谷寺に参詣し、故郷(大和国)に思いを馳せたとされる。指定文化財を多く所有する寺で、展示室(一般公開)が6室あり、木造矜羯羅童子立像(県指定有形文化財)、木造白山女神坐像(市指定有形文化財)など数多くの像が安置されている。33年に1度開帳される、秘仏の木造十一面観音立像(国指定重要文化財)と同じ様式の木造十一面観音立像(県指定有形文化財)も、展示室で拝観することができる。本堂や庫裡、経蔵、米蔵、鐘堂など、江戸時代に建てられた建造物も多く残っている。また、花の寺としても知られ、春は桜、初夏は牡丹や紫陽花、秋は紅葉と、四季折々の表情を見せる寺である。

【MAP】C-6

【住所】佐渡市長谷13



木造十一面観音立像
(県指定有形文化財)
平安時代後期
像高約100cm

木造矜羯羅童子立像
(県指定有形文化財)
平安時代後期
像高60.3cm

木造白山女神坐像
(市指定有形文化財)
平安時代前期
像高54cm



木造四天王立像 多聞天
(県指定有形文化財)
平安時代中期
像高79.8cm



木造不動明王坐像
(県指定有形文化財) 平安時代後期
像高約135cm



台徳院御霊屋(国登録有形文化財)江戸時代中期 こけら葺の一間社。彫刻などに精微な技巧が見られる。



八角堂(国登録有形文化財)江戸時代中期 軒の組物は彫刻を多用し、全体で雲中の竜を表現している。



客殿(国登録有形文化財)明治42(1909)年再建。桁行24.6m、梁間16.1m。

文化財建造物の宝庫

れんげぶじ 蓮華峰寺

創建：大同元(806)年

佐渡が京都の鬼門にあたるとして、比叡山にならない小比叡山として創建された弘法大師空海が開山したと伝わる名刹。弘法堂、金堂、骨堂は国指定重要文化財であり、そのほか境内16の堂宇伽藍は国登録有形文化財である。境内の仁王門に収まる木造金剛力士立像(県指定有形文化財)は、両像とも櫨材で造られ、沈静でやや形式化した表情が、鎌倉時代の傾向を示しているとされ、蓮華峰寺興隆期の作とされる。境内の敷地は1haと広大で、初夏には、約7000株のアジサイが咲き誇ることから、別名「アジサイ寺」とも呼ばれている。

【MAP】 B-8

【住所】 佐渡市小比叡182

蓮華峰寺の鎮守

こびえじんじや 小比叡神社

創建：大同2(807)年

山王権現、白山権現、天満宮の三社が合祀された蓮華峰寺の鎮守であったが、明治元(1868)年の神仏分離令によって小比叡神社と改称した。本殿(国指定重要文化財)は寛永17(1640)年の建立で三間社流造、こけら葺である。手前の石鳥居には慶長13(1608)年に建てられた刻銘が残る。茅葺の拜殿(県指定有形文化財)では毎年2月6日に小比叡神社田遊び神事(市指定無形民俗文化財)が行われている。

※田遊び神事は令和2年から休止

【MAP】 B-8

【住所】 佐渡市小比叡185



拜殿では、建物内を田んぼに見立てた「田遊び神事」が行われる。



自身の相似顔がある五百羅漢

だいらんじ 大蓮寺

創建：応永28(1421)年

越後の禅師・本嶽宗悟が創建したとされる曹洞宗の寺院。山門(県指定有形文化財)は上杉景勝によって落城した羽茂城(県指定史跡)の門で、焼失をまぬがれて移築したものとされる。また江戸の仏師・松尾勘左衛門作による五百羅漢があり、金箔などの装飾は能登の塗師によるものと伝わる。



五百羅漢は寛文4(1664)年から7年をかけて作仏された。



木造阿弥陀如来坐像(市指定有形文化財) 像高50cm、総高(頭頂～台座底)102cm 大蓮寺の本尊として安置する。胎内に応永34(1427)年再興の銘が残る。

【MAP】 B-8

【住所】 佐渡市羽茂本郷2075-甲

世阿弥ゆかりの面が伝わる

しょうぼうじ 正法寺 創建：正中元（1324）年

永享6（1434）年、將軍の不興を買って佐渡に配流となった能の大成者・世阿弥が身を寄せた寺である。寺には世阿弥が都から持ってきたと伝わる「神事面べしみ」（県指定有形文化財）が残されている。観音堂ほか5棟が国登録有形文化財となっている。本堂は、前廊下の天井に優美な海老虹梁が渡され、室内には力強い木彫りの欄間が設けられている。

【MAP】 C-5

【住所】 佐渡市泉甲504



優美な曲線を描く堂内の海老虹梁は見事。

世阿弥が着用して舞ったと伝わる「神事面べしみ（県指定有形文化財）」は「雨乞いの面」とも呼ばれている。
面長22.0cm・面幅15.9cm



存在感のある木彫りの大きな欄間。細部の意匠には目を奪われる。



銅鐘（国指定重要文化財）
13世紀頃
（鐘身部分約83cm）
口径61.2cm



木造阿彌陀如来坐像
（国指定重要文化財）
平安時代後期
像高87cm



木造薬師如来坐像
（市指定有形文化財）
平安時代
像高52.3cm

平安期の阿弥陀像が伝わる古刹

ちょうあんじ 長安寺 創建：天長8（831）年

茅葺の二王門（市指定有形文化財）には、慶派の作といわれる躍動的な木造金剛力士立像（市指定有形文化財）が安置されている。本尊の木造阿彌陀如来坐像（国指定重要文化財）は、檜の寄木造りで平安後期の作とされる。同じく平安時代の作とされる木造薬師如来坐像（市指定有形文化財）や、銅鐘（国指定重要文化財）など、古からの文化財が伝わっている。

【MAP】 D-5

【住所】 佐渡市久知河内152



中門を抜けると現れる美しい本堂（舞台）には息をのむ。

樹齢400年の杉並木と舞台造りの本堂

せいすいじ 清水寺 創建：大同3（808）年

参道両側に高くそびえる杉並木と石段の先に中門（市指定有形文化財）があり、正面に舞台付きの本堂（市指定有形文化財）が現れる。本山は奈良の長谷寺で、舞台造りも奈良の長谷寺と類似性があるといわれている。享保15（1730）年の棟札や江戸期の伽藍の様子を描いた「佐州清水圖」が残る。

【MAP】 D-5 【住所】 佐渡市新穂大野124-1



牛尾神社の拝殿



拝殿には精緻な彫刻が施されている。

名工の技が偲ばれる拝殿の彫刻

うしおじんじや 牛尾神社 創建：延暦11（792）年

延暦11（792）年に出雲大社より勧請創建したとされる神社。拝殿は三方唐破風造りで、彫刻は島内外の名工が手がけた。龍、虎、獅子などの霊獣や動物、順徳上皇の遷御などが彫られている。境内にある能舞台（県指定有形民俗文化財）は、明治32（1899）年の火災で焼失し、同34（1901）年に再建されたと伝わる本格的な造りで、6月に新能が催される。

【MAP】 D-5 【住所】 佐渡市新穂潟上2529

祈りの扉を開けるⅡ

唄い、舞い、演じる、祭礼の日



田の中央から、時計回りに苗を植えていく。田の中心には神様が降りてくるという。

島の宝は稲の唄

さど くるまだうえ 佐渡の車田植

(国指定重要無形民俗文化財)

畦で歌われる「植えた車田は穂に穂に下がる」という田植唄に合わせ、3人の早乙女が田の中央から渦を描くように苗を植えていく。苗を車状に植えていくのは、「太陽の形」や「神が降りる目印」を表し、豊作を祈願したものといわれている。その後の稲刈り・乾燥・舂すりなどが他の田と区別して行われるなど、古い農耕習俗を伝え残す田植行事である。かつては、岩手県や岐阜県、高知県などにも同様の行事が伝わっていたが、現在ではほとんどが消滅しており、佐渡でも北鶴島の北村家でしか見ることができない。車田植えは毎年5月中旬から下旬頃、北村家の最も広いオオダと呼ばれる田んぼで行われる。

【MAP】 D-1

【開催地】 佐渡市北鶴島

【開催情報】 佐渡には農耕儀礼が多くあり、他にも白山神社の田遊神事や五所神社の御田植神事などがある。詳細はP13。



下川茂五所神社御田植神事
(県指定無形民俗文化財) 毎年2月6日開催



大久保白山神社田遊神事
(県指定無形民俗文化財) 毎年1月3日開催

佐渡最古の能舞台

さどだいぜんじんじゃのうぶたい 佐渡大膳神社能舞台

かつて島内に200ほどあったとされる能舞台だが、今は35棟が現存している。全国的に見ても多くの能舞台が残る佐渡では、昔から能楽が庶民に親しまれてきた。室町時代に能の大成者・世阿弥が配流となった佐渡であるが、能が実際に庶民にまで浸透したのは江戸時代のこととされる。猿楽師を父にもつ大久保長安が、能楽師を伴い佐渡に赴任。以後、金銀山の経済力を基盤に推奨され、庶民に浸透していった。今でも島内各地の能舞台では地元演者を中心に演能が催される。

【住所】 佐渡市竹田561 【MAP】 C-6

【演能情報】 毎年、初夏を中心に新能が各地の能舞台で開催されている。詳細p13。



大膳神社能舞台(県指定有形民俗文化財)弘化3(1846)再建。旧鏡板に残る墨書の記録から現存する佐渡最古の能舞台とされる。

祭りは春と秋に多く、神仏や祖先に五穀豊穡の祈りや感謝を捧げる。小さな集落がいくつもある佐渡は、その数だけ多種多様な祭りがある。集落ごとに集まり、地域の担い手が唄や舞いを奉納するとき、旅人も地域の一員になって、祭りに参加してみよう。



新穂日吉神社前で勇壮な鬼太鼓が奉納される。

400年続く盛大な例祭

にいぼ さんのうまつり 新穂の山王祭

(県指定無形民俗文化財)

新穂地区の山王祭は、周辺の6集落が集結して執り行い、山王七社の各神輿が新穂日吉神社の本社に参集する祭礼である。新穂日吉神社は、滋賀県大津市にある山王総本宮の日吉大社のうつしであると語り継がれており、山王七社や儀式の共通点から両社の関係を知ることができる。神社本殿で行われる僧侶の説経などからは、明治初期以前の神仏習合の時代、別当寺が神社の維持管理に深く関わっていた名残が垣間見え、周辺集落からの神輿の集結、鬼太鼓や獅子舞の門付け、流鏝馬の奉納などが見られる。祭礼の成立時期は不詳ではあるが、史書『佐渡志』などの記述から、天文～天正(1532～1592)年間頃には流鏝馬や神輿渡御がすでに行われていたものと思われる。

【MAP】C-5 【開催地】佐渡市上新穂



彫り師による鬼面。
(新穂歴史民俗資料館所蔵)



集落の家1軒1軒を鬼太鼓と獅子舞が門付けする。

中世の絵巻を見るような伝統行事

くじはちまんぐうさいれいしんじ 久知八幡宮祭礼神事

(市指定無形民俗文化財)

応永12(1405)年の史料に記録を残す、古くからの祭礼行事。9月13日の介添・射手の宮籠りから始まり、14日が夜祭りとなる。15日の本祭りには神殿行事、塩汲み、神輿渡御、流鏝馬などがあり、近隣の3集落から刀、鬼太鼓、花笠踊(県指定無形民俗文化財)などが奉納される。



神霊を慰め、五穀豊穡を祈願する花笠踊。

【MAP】D-5 【開催地】佐渡市下久知

【開催情報】現在は9月15日に近い

日曜日に本祭りが行われている。詳細はP13。

島民による大衆娯楽

さど にんぎょうしばい 佐渡の人形芝居

ぶんやにんぎょう せつきょうにんぎょう
文弥人形・説経人形・のろま人形
(国指定重要無形民俗文化財)

1人で1体の人形を操る、古浄瑠璃形式を基に独自の改良が加えられた人形芝居である。文弥人形は京都の文弥節を下地としている。説経人形は僧侶の説経に端を発した説経節が用いられ、最も古い人形芝居の一つとされる。のろま人形は佐渡弁を交えた台詞でユーモラスに演じられる。

【上演情報】島内の人形座は8団体ある。詳細はP13。



表情豊かな人形首は新穂歴史民俗資料館に展示されている。



人形の動きはまるで生きているかのよう。

荘厳華麗な神輿行列

うとうじんじゃ 善知鳥神社 さいれいぎょうじ 祭礼行事

(市指定無形民俗文化財)

町内を巡る勇壮な神輿渡御は、数千の提灯に法螺貝の響きと「チョウサヤ」の掛け声とが相まって荘厳華麗な光景となる。鬼太鼓は、元は金銀山の大工が鉦石を穿る所作に似せて太鼓を打ったものとされ、太鼓の音に合わせて翁面の豆蒨きが梶と柿を持って舞う。

【MAP】A-5 【開催地】佐渡市相川

【開催情報】毎年10月19日



善知鳥神社からはじまる神輿渡御。



夜半まで町内を練り歩く。

東北の鹿踊りにも類似

こじしまい 小獅子舞

(市指定無形民俗文化財)

小木町(稲荷町)の小獅子舞は稲荷神社建立にあたり、京都の伏見神社より伝来したとされ、雄獅子、雌獅子、子獅子の3匹の獅子が、宮踊り・宮歌、町踊り・町歌を舞う。小獅子舞(小鹿舞)はこのほか赤泊・両津・相川でも見られる。

【開催地】佐渡市小木町ほか

【開催情報】各地区によって日程が異なる。詳細はP13。



各地の舞いの違いを見て歩くのも楽しい。



横笛の音に合わせて、弧を描くように踊る赤玉の小鹿舞。

てくてくマップ I

あ い か わ

相川編



佐渡奉行所を中心として全国から人が集まり、家屋が軒を並べた相川の町並み(金山展示資料館の模型)。

道遊の割戸。金銀鉱脈を掘り進んで山を二つに割ってしまった。(国指定史跡)



江戸から近代へ 鉱山町の名残りを 散策する

江戸時代に鉱山町として繁栄した相川は、佐渡奉行所から東へ、相川金銀山へ通じる道を中心に職業別の町割りが見られ、その後、平成元年の休山まで鉱山とともに、その歴史を刻んできた。鉱夫が住んだ大工町、山師の名前がついた新五郎町、商売に由来する米屋町、味噌屋町、四十物町……。今も町を歩けば、その名残りを見つけることができる。

1 北沢浮遊選鉱場跡

(国指定史跡)

昭和11(1936)年から、金の増産を目的に建設された鉱石処理施設。当時、月間5万トンもの鉱石処理を可能にしたという。遺跡となった今は写真スポットだ。

佐渡金銀山Story

12世紀末に成立したとされる『今昔物語集』。そこには、能登の砂鉄採りが佐渡に渡り、砂金を採る説話が登場する。その場所とされる真野地区西三川で行われた砂金採りは、川の水で砂金の含まれた砂を洗い流し、残った砂金を採取するという方法であった。

その後、石見銀山(島根県)をはじめ日本各地で鉱山開発が活発化し、硬い鉱石から金銀を採取する方法が次第に確立されていった。佐渡島内でも越後の商人によって、佐和田地区の鶴子銀山が発見され、銀の採掘が行われた。鶴子銀山近くに位置する相川では、慶長6(1601)年に道遊の割戸などで、大規模な開発が始まった。

これに注目した徳川幕府は、佐渡一國を直轄領とし、慶長8(1603)年に石見銀山の代官であった大久保長安を代官頭として就任させた。長安は、

相川の海に面した台地の先端に陣屋(後の佐渡奉行所)を築き、米屋町、味噌屋町、大工町など職種別に居住区をつくるなど計画的な町立てを行った。また、金銀山の富を求めて、全国から山師、鉱夫、商人、職人などが相川に移り住んだ。こうして、それまでは数軒の人家しかなかった寒村は、鉱山の発見によって、またたくまに人口4~5万人の鉱山都市となり、その様相を一変させることとなった。

佐渡で産出した金銀からは、小判も製造され、徳川幕府の財政を支えた。しかし、有望な鉱脈が掘りつくされ、さらなる鉱脈を求めて掘り下げられた坑道は海面下に達した。坑内の地下から湧き出る排水処理には莫大な費用が必要となり、金銀の産出量が減少したことで、次第に相川の本銀山は衰退していった。

これに歯止めをかけたのが、明治2(1869)年に始まった鉱山の近代化である。開国とともに導

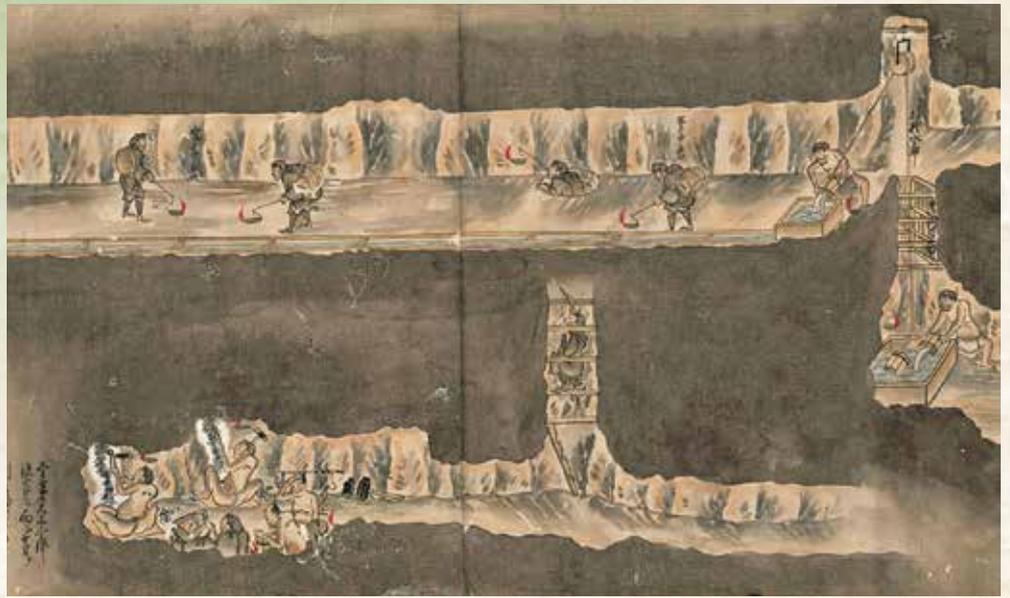
入された西欧の最新技術や機械類によって増産がなされ、官営佐渡鉱山は日本国内における模範鉱山としての役目を担った。その後、鉱山は皇室財産として宮内省御料局の所管を経て、明治29(1896)年には三菱合資会社へ払い下げられ民営化した。

民営化後の昭和13(1938)年には、海外貿易品の購入資金として国策による金銀の増産が図られた。これにより、北沢浮遊選鉱場や大立堅坑槽、高任粗砕場、鉱山住宅といった施設が次々に建設され、年間約1.5トンの金生産を記録した。しかし、その後は次第に産出量が減少し、幾度かの経営縮小を経て、平成元(1989)年に休山するに至った。

約400年間の長きに渡り採掘が続けられ栄華を極めた鉱山の歴史は、遺跡や町並み、そして現代に引き継がれる人々の営みの中に刻まれている。



ゴールデン佐渡では、実際の坑道内に入ることができる。(入場有料)



左下の坑道では大工(鉱夫)が鉱脈を採掘しており、上の坑道では鉱石を運搬する人びとが行きかっている。

絵巻に描かれた 佐渡金銀山

絵巻は鉱山の作業工程や管理の様子を、奉行などへ説明するために描かれたものであった。主に江戸時代中期以降に制作されたものだが、佐渡にはこのような金銀山の様子を描いた絵巻や絵図が数多く残されている。

歴史散歩してみよう



② 佐渡奉行所跡

(国指定史跡)

佐渡奉行所には、佐渡一国の行政と金銀山の管理を行う機能のほか、金や銀を選鉱・製錬する工場(寄勝場)、奉行の住居(御陣屋)があった。現在の建物は復原したもので、建物内の見学ができる。



③ 鐘楼

(国指定史跡)

18世紀初頭から明治まで、約200年に渡って相川の町に時刻を知らせた鐘と、それを釣っていた鐘楼がある。鐘は佐渡産出の銅で铸造されたもの。旧裁判所の煉瓦堀沿いにあり、この通りは景観も抜群だ。



④ 旧相川拘置支所

(国登録有形文化財)

昭和29(1954)年に、新潟刑務所相川拘置支所として開設された。被疑者・被告人を拘禁する場所であった。拘置施設として同47年まで使用された。レトロな近代建築で建物内の見学ができる。



⑤ 旧相川税務署

(国登録有形文化財)

相川税務署は明治22(1889)年に置かれたが、現在に残る本館は昭和6(1931)年に建築されたもので、同45年まで税務署庁舎として使用された。左右対称の洋風建築で、相川市街地のランドマークともなっている。



相川金銀山及び
鉱山町は
重要文化的景観に
選定されて
います



千石船「白山丸」

安政5(1858)年に宿根木で建造された和船を当時の板図(設計図)をもとに忠実に復元している。

全長 23.75m

艦高 6.61m

積石数 512石(77t)



① 佐渡国小木民俗博物館

〔旧宿根木小学校(市指定有形文化財)〕

大正10(1921)年に建てられた宿根木小学校校舎を利用した博物館。南佐渡を中心とした数多くの民俗資料を収集展示するほか、併設の千石船展示館では白山丸が見学できる。

てくてくマップ II

宿根木編

千石船の里で 海の暮らしと文化を体験する

佐渡の南西端に位置する宿根木は、小さな入江に面した谷間の集落で、江戸時代から明治にかけて海運業で繁栄した。集落に足を踏み入れ、まちの佇まいに目を凝らしてみれば、肩を寄せ合い暮らしてきた家々の知恵と工夫の跡が垣間見えてくる。

廻船業の村Story

江戸時代に京都や大坂など上方から日本海を經由して物資を運び、積荷を各地で売買する商船のことを北前船と呼んだ。船の航路は、酒田から瀬戸内海を經由して大坂、江戸へ向かう西廻り航路と、津軽海峡を經由して江戸へ向かう東廻り航路があった。明治期になり、陸運が発達し鉄道が敷かれ、電信が発達すると、北前船は次第に需要がなくなり姿を消していった。

佐渡の北前船の全盛期は、寛延3(1750)年から嘉永3(1850)年のおよそ100年間と推定されている。寛文12(1672)年に小木港が西廻り航路の寄港地に指定されると、小木港からほど近い宿根木は廻船業の基地となり、村の眼前にある入江で和船が建造された。集落には船主、船頭、水主、船

大工、鍛冶屋、桶屋、石工など500人余りが集住した。船は各地から取引した物品、たとえば船持旦那衆の豪華な振舞用蒔絵の漆器、輪島塗の膳椀、伊万里の染付磁器など、当時の庶民には手に入らないようなものも運んできた。宿根木には今も瀬戸内からの御影石や山陰からの瓦など、廻船で運ばれた品々が残っている。船はこれらのモノだけでなく、同時に多くの芸能や風習を伝え、島の中に独自の文化が形成された。

明治半ばに入り和船の全盛期が過ぎ去ると、宿根木は次第に耕地を求めようになり、昭和30(1955)年代からの高度経済成長期に入ると、廻船業は終焉を迎えた。また、これまでの生活様式が一変し、昔の道具などは次々と捨てられていった。

宿根木が再び廻船業の村として姿を現したのは、昭和47(1972)年。昭和40年代から行われた民家

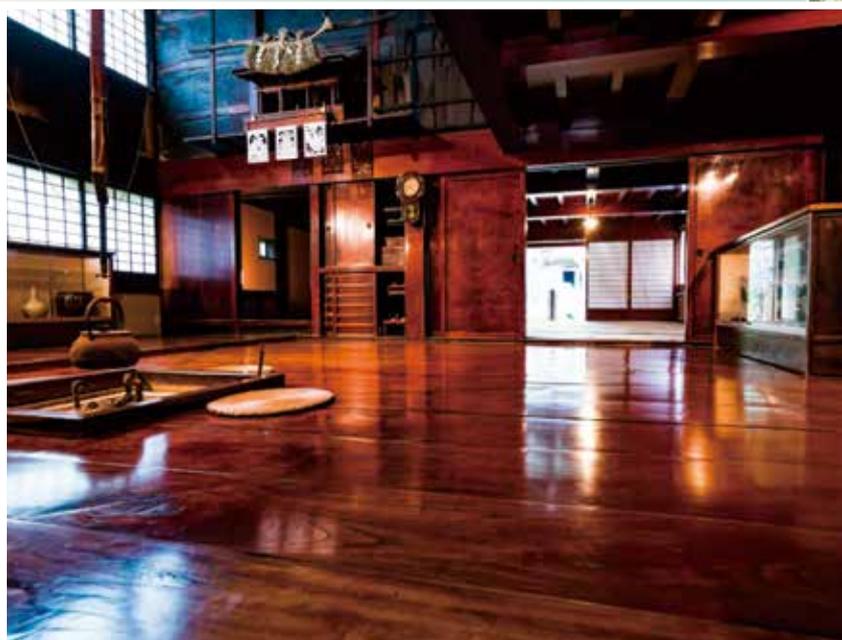
調査や民具の収集活動などにより、村の歴史や過去の暮らしが再認識され博物館も開館した。また、廻船業の影響を受けた特徴的な建築群は、平成3(1991)年に国の重要伝統的建造物群保存地区に選定された。平成10(1998)年には造船基地としての魅力を高めようと博物館に収集・保存されていた資料をもとに、実物大の千石船が復元された。

いま宿根木を訪れると、かつての廻船業で繁栄した村の佇まいを見ることができる。宿根木の住居は、石置板葺屋根で外観は杉の縦板張りなど全体的に簡素であるが、室内に入ると柱梁、建具などの朱塗りや細工を施した面皮柱など豪華な造りが見られる。集落の中にはいくつかの公開施設(公開民家)があり、希望すれば地元ガイドが説明をしてくれる。ぜひ、ゆっくりと時間をかけてノスタルジックな町並みを巡ってほしい。

宿根木の建物紹介

歴史的な建物を見て歩こう

- A 清九郎** 千石船を2隻所有した廻船主の主屋。安政5(1858)年頃の建築で、広い土間や内装の漆塗り、面皮柱など豪華な造りが見られる。建築材料、技術とも当時の最高水準を誇る建物である。
- B 金子屋** 弘化3(1846)年以前の建築で、昭和10(1935)年に船乗りであった金子屋が購入し、主屋として使用していた。内部は往時の姿に復原されており、ナンド(寝室)には帳台構えと呼ばれる上げ敷居が見られる。
- C 伊三郎** 明治24(1891)年頃の建築で、船頭を稼業としていた家柄の主屋。2階北側がせり出したセガイ造りや「石」と書かれた軒下飾りなど、特徴的な意匠が残る。
- D 山下** 弘化3(1846)年以後の建築で宿根木では数少ない中門造りの納屋。廻船主の家柄で、かつては家財道具などを収納していた。現在は主屋部分を庭に改装し、納屋は店舗として利用している。



往時の姿に復原されたオマエ(居間)。内部は見学することができる。



さんかくや ② 三角家

水害のあった弘化3(1846)年以後の建物で、移築したものといわれる。移築前は4×6間の四角い建物であったが、狭い敷地の形状に合わせて三角形に建てられている。



よすてこうじ ③ 世捨小路

葬儀の際には必ず通ったとされる石畳の小路。小路に面する家々が資金を出し合って整備したとされる。長年に渡る人々の往来で、石の中央がすり減っている。



しょうこうじ ④ 称光寺

貞和5(1349)年開基と伝わる時宗の古刹で、本堂は大正12(1923)年の称光寺大火後に建てられた。火災を免れた山門には、享保2(1717)年の棟札が残る。



いしおきやね ⑤ 石置屋根

昭和30(1955)年頃までは石置屋根が多く見られた。屋根は、細長く割った杉板を重ねて重石を置いている。かつて数年ごとに行った葺替えは、集落の共同作業であった。



宿根木の海岸(隆起波食台)

宿根木 公式ホームページ
<http://shukunegi.com/>



文化財探訪マップ

佐渡までのアクセス

日本海側最大の島である佐渡へは、新潟港より船（カーフェリー）に乗り約2時間30分で到着する。東京から新潟までは鉄道（新幹線）で約2時間、車で約5時間程かかる。旅のプランに合った交通手段を利用してほしい。

島内の交通情報

佐渡島は東京23区の約1.4倍の約855kmと、想像以上に広大だ。鉄道は通っていないため、主な移動手段は車や路線バスになる。他にも観光タクシーやレンタカー、レンタサイクルなどもあるので、旅の計画や距離に応じて利用してほしい。

佐渡島



さど観光ナビ

さど観光ナビ

各移動手段の利用方法や連絡先に関する情報は、佐渡観光協会の公式サイト「さど観光ナビ」で確認できる。

WEBサイト <https://www.visitsado.com/tosado/insado/>

船や路線バスに関する詳しい情報は

「佐渡汽船」「新潟交通」の公式サイトで確認できる。

佐渡汽船WEBサイト <http://www.sadokisen.co.jp>

新潟交通WEBサイト <http://www.niigata-kotsu.co.jp>



地域のお祭りや芝居公演などを見るには

地域のお祭りや民俗芸能は各地で催される。

名称	場所	開催予定日
白山神社の田遊神事	大久保	現在は1月3日
五所神社の御田植神事	下川茂	2月6日
小比叡神社田遊び神事	小比叡	2月6日 ※令和2年からは休止
新穂の山王祭	上新穂	4月12～14日
佐渡の車田植	北鶴島	5月中旬～下旬頃
赤玉神社神事	赤玉	4月の第2日曜日
小獅子舞	小木町	現在は8月最終土日
久知八幡宮祭礼神事	下久知	現在は9月15日に近い日曜日
善知鳥神社祭礼行事	相川下戸村	10月19日
人形芝居（説教人形、のろま人形）	新穂瓜生屋	新穂歴史民俗資料館に問合せ



演能について

薪能は初夏を中心に各地で催される。

名称	場所	開催予定日
二宮神社能舞台（二宮神社薪能）	二宮 232-2	2、8月
佐渡大膳神社能舞台（大膳神社例祭奉納能）	竹田 561	4月
佐渡諏訪神社能舞台（天領佐渡両津薪能）	原黒 724	5、6、7、9、10月
佐渡大膳神社能舞台（大膳神社薪能・鶯流狂言）	竹田 561	6月
佐渡草苧神社能舞台（草苧神社薪能・鶯流狂言）	羽茂本郷 1698	6月
佐渡牛尾神社能舞台（牛尾神社例祭奉納薪能）	新穂潟上 2529	6月
佐渡本間家能舞台（本間家定例能）	吾潟 987	7月

本パンフレットで紹介したのは佐渡の文化財の一部です。佐渡は400以上の文化財（国・県・市指定文化財、国登録有形文化財）がある「歴史と文化の島」です。



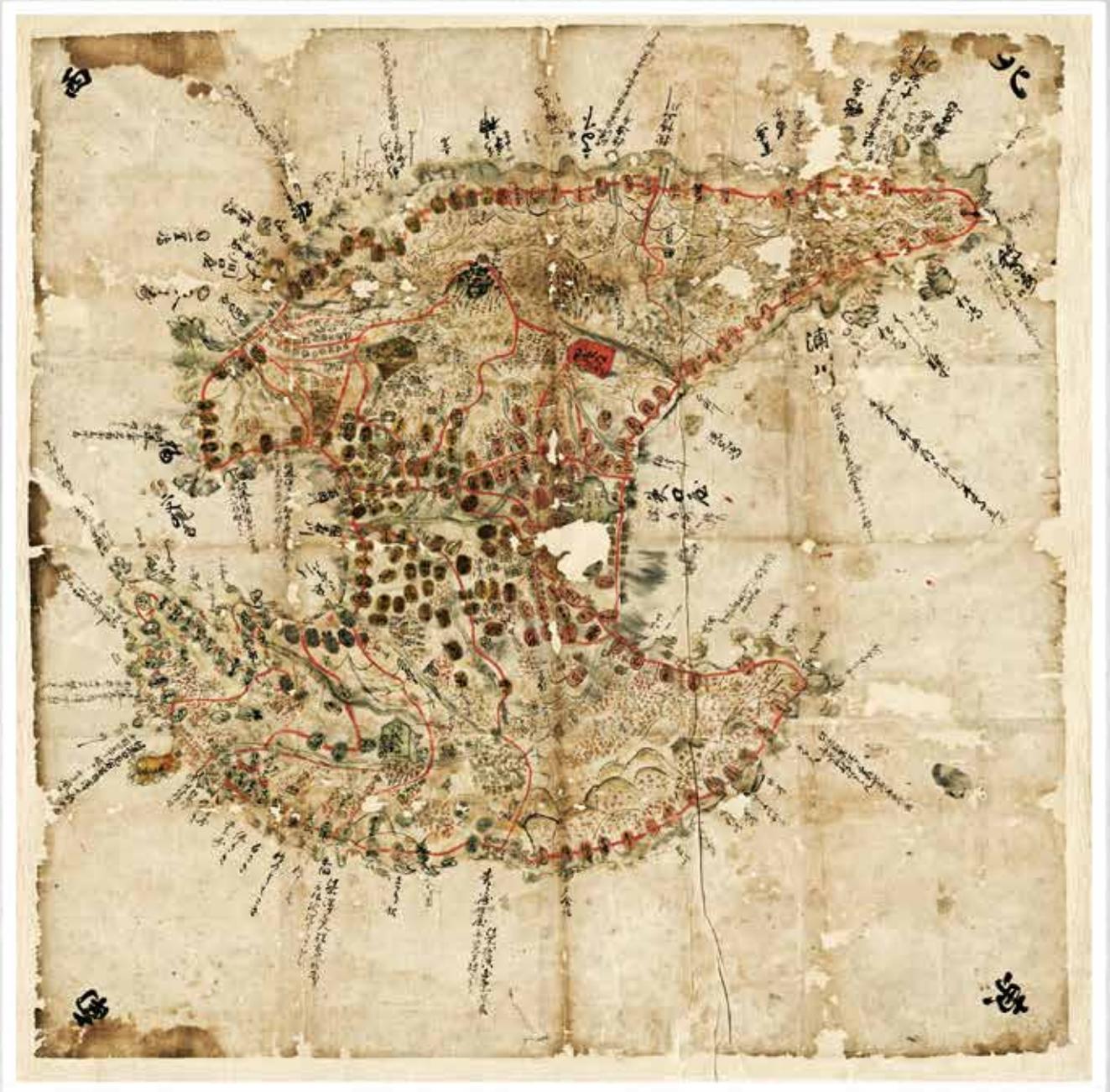
てくてく
マップⅠ
相川編
…p9

てくてく
マップⅡ
宿根木編
…p11

国道航路 350 号線
直江津～小木航路 78km
至直江津港

国道航路 350 号線
新潟～両津航路 67.2km

至新潟港



佐渡国絵図(県指定有形文化財)天和年間(1681~1684) 縦95cm、横96cm
佐渡一国の交通状況に加え、島の地形や気候までも描かれた江戸時代前期の地図。



佐渡の文化財

佐渡の文化財に関する情報はホームページ「佐渡の文化財」にて、
PC、スマートフォン、タブレットでご覧いただけます。

https://www.city.sado.niigata.jp/z_ot/cultural_property/index.html

咩形像 像高259cm、阿形像 像高258cm
表紙の写真は長安寺 木造金剛力士立像(市指定有形文化財)
慶派の作風を伝える貴重な文化財です。